

AJU

コンビニハウス

会報

編集/コンビニの会事務局
連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町147番地
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人
コンビニの会

定価/150円
昭和54年8月1日第三種郵便物承認

第156号



桑名城跡に整備された九華公園 五月はツツジが満開

東海道五十三次の歩破にチャレンジ!!

風景写真愛好家 片桐 彰夫

初めまして、先ずは自己紹介から。三重県生まれ、名古屋暮らし。四十年近く機械設備の建設・保守に携わってきました。昨年末に雇用期間満了となり、少し自由時間ができたので、東海道を歩くことにチャレンジしていきます。ハンデイのある長女の縁から、今号の表紙の依頼がございましたので、その様子をご紹介します。

チャレンジのきっかけは二十二年前の静岡県清水市への単身赴任時代に遡ります。家康公が東海道を制定して四百年にあたり、お膝元のこの地域では大ブーム。便乗して歩いてみようと思ったわけです。なかなか時間が取れず、由比ヶ江尻、府中へ鞠子と小間切れでした。歴史上の名所・旧跡を訪れることで「なんちゃって歴男」になった気分でした。もともと一番の楽しみは、桜えび、安倍川餅、とろろ汁など各地の名物を味わえたことでした。

(次頁へ)

さて、約二十年ぶりの再開は出身地の桑名・七里の渡しからです。熱田神宮から海上七里、伊勢の国への第一歩です。徳川四天王の一人、本多忠勝が十万石の領主として桑名城に入り、地元の川の流れを変えるなど、港町から城下町へ大改造をしました。

写真は、桑名城跡に整備された九華公園です。四月桜、五月ツツジ、六月花菖蒲など季節の花が堪能できます。さて、名物はハマグリですが、食べた記憶はありません。幼いころ、実家近くの揖斐川で泥だらけになりながらもシジミをバケツ一杯採り、みそ汁でよくいただきました。

今は、コロナ禍でもあり、健康維持のため、歩く人が多くなってきています。東海道を歩破し、ついでに美味しい名物をいただき、心の健康も保ちたいと思っています。



伊勢の国への第一歩 七里の渡し

雑記 ごまめの歯ぎしり

家族写真

我が家では毎年年末近くになると写真を撮り、その写真を使って年賀状を作成するのが慣わしだ。出来る限り家族揃っての写真を撮り、皆さんへのご挨拶代わりにも思ってきたのと同時に、我が家としての歴史の記録のような意味もあった。

また、隣にある公園は桜がとて綺麗に咲き、下の息子が生まれる頃に今の家に引っ越してからは、子供達の成長の記録として毎年その桜の下でも写真を撮ってきた。娘が東京に行っていた間も毎年途切れる事なく続けてきたが、最近はそのれぞれ大学生と高校生になり、恥ずかしがってなかなか写真を撮らせてくれなくなった。個人の予定も増え家族で一緒に過ごす時間自体も少なくなってきたこの頃、みんなで揃って写真を撮るのももうそろそろ限界かな？と感じ、それは子供達の独り立ちということかと思う。

今では写真を撮るツールはカメラからスマホに変わっており、写真はデータで保存され、現像することが本当に少なくなった。しかし、大量に撮られることになったお陰で、データの中の1枚1枚の写真に対する思い出のようなものも軽くなってしまうように感じる。写真は思い出ではなく、ただの記録の情報のようなものになってきている気がする。

この春は久しぶりに何枚か写真屋さんで現像してみたのだが、卒業式のいくつかの写真は小さなポケットアルバムに入れて息子の担任だった先生にお渡しした。数枚ではあったが1枚1枚をじっくり見ながら喜んで頂けた。最近ではあまり見なくなった昔ながらのアルバムも、どの写真を現像するか選ぶ時間がその写真に思いを込める時間となり、改めて良い物だと思った。



外出が楽しい季節となりました。

ヘルパーを利用しての外出は、ヘルパーの交通費や食費、宿泊を伴う外出の場合は宿泊費用なども依頼した本人が負担するケースがほとんどです。その費用をためらい、せっかくの外出をあきらめてしまう人もいるでしょう。そういったことへの支援として、NPO法人コンビニの会の「障害者（児）の余暇活動を広げるための基金」があります。これは、1回につき1万円を上限として年1万円まで、余暇における介助者分の費用が補助されるとい制度です。当事者の困りごとにそこまで寄り添うのか！と感銘を受けた仕

組みでした。

ですが、新型コロナウイルスの蔓延により、2020年からの利用実績は教えるほどという状況。日本中で、世界中で、多くの人の外出機会が奪われ、どこかに出かけ、誰かに会って、日頃目にしない風景や物事に触れ、日常に戻る。このことが繰り返される日々をどれだけ支えていたかを私自身も思い知らされた2年間でした。

そんな中、大川理事長の「制度が利用されずに予算が余っているのなら、人形劇でも呼んでみんなで観たらいよいよじゃない」の一言で今回の人形劇観劇会が実現しました。

いくつもある選択肢の中で、どうして人形劇だったかという、前年に理事長が観られた人形劇の舞台が素晴らしく、印象に残っていらつしやったこと。そして、私が20代のころに人形劇団に所属していたことをご存じで、よく話題にしてくださいました。

コロナ蔓延は、人形劇を上演していただいた「むすび座」さんだけではなく、文化活動を行う多くの団体や個人にも、活動の存続を

脅かすほど大きな影響を与えていました。それを知っていながら、自分自身もコロナの脅威に怯え、対応に追われ、陰から応援するしかなかった私は、この提案に飛びつきました。お世話になった劇団の力になりたい。そして、外出機会を奪われ、楽しみを奪われ続けている仲間の笑顔を生み出す機会になれば！と張り切って企画しました。

ですが、当初予定していた2月はコロナ第6波が広がり続ける中で、とても実施できる状況ではありませんでした。延期した3月21日も感染者は高止まりでしたが、事業所内のコロナワクチン追加接種も終えていたことから、感染対策を行ったうえで、えいやつと実施。内心ひやひやでしたが、上演が始まり、これまでコロナの警戒態勢の中で緊張していた仲間の表情がほころんでいくのを目にした時、本当にやってよかった！と自分の心もほぐれていくのを感じました。仲間の笑顔が嬉しくて、私は上演中、舞台よりもずっと仲間のほうを向いて笑っていたように思います。

むすび座さんの人形劇も素晴らしかった

です。普段、子供向けに上演されている作品ですが、大人が観ても楽しく、心に残る舞台でした。この紙面を読んでいただいている方にもぜひ、どこかでご覧になっていただきたいと思いますので、細かい内容については控えさせていただきますが、1作品目「1・2・3かく・4かく〇」は、抽象的なかたちや動きで小さなドラマまでを紡ぎ出す創造力を掻き立てられる作品でしたし、2作品目の「だってだってのおばあさん」は、佐野洋子さんの絵本を原作にした、猫とおばあさんの物語で、2者の関係性のあたかさと、関わりによって生み出される新しい視点の大切さに気づかされる素敵な作品でした。

今回、貴重な機会を与えていただいた、NPO法人コンビニの会に最大の感謝と、まだまだ厳しい状況が続いていかれるであろう「むすび座」をはじめ日本の文化を支える団体にエールを送るとともに、益々のご活躍を祈ります。そして、この観劇会で得た活力を支えに、いつかまた、気軽に仲間とどこかに出かけられる未来を目指して、日々を過ごしていきたいと思えます。



～ 人形劇団 むすび座 公演後アンケートより ～

★「1・2・3かく・4かく。」はいかがでしたか。

- ・まるしかくさんかくのものの語りが形だけで表現をとて難しいだけでそれが不思議でした。あったらみたいです。と思いましたまたの機会を楽しみにしています最後に夢のような時間を届けてありがとうございました。(利用者Mさん)
- ・不思議なお話だと思ったけど、人形劇が始めからものすごく面白くて最後まで真剣にみていました！私は始めから面白くて、笑いが止まらなかったです。こんなに予想出来ない人形劇は見たこともなかったです。本当に楽しかったです。(利用者Sさん)

★「だってだってのおばあさん」はいかがでしたか。

- ・だってだってのおばあさんはおばあさんとねこがやり取りは楽しいコントをしている感じでした。(利用者Mさん)
- ・どんな話かな～って、想像できなかった。おばあさんと猫の関係が本当に良さが面白かった。感動する話だったし。笑いもあり楽しかったです！私は「だってだってのおばあさん」の方が一番良かったです。(利用者Sさん)

★その他、お申込みから上演まで、当日の公演について、感じたことがありましたらお聞かせください。今後のご要望などもございましたらお書きください。

- ・人形劇は普通の話より展開が早くて時間が過ぎほど夢の世界にいるように感じでした。普段ではなかなか見えない日を体験頂きありがとうございます。これからも沢山の人たちに素敵なお話聞かせてください。(利用者Mさん)
- ・最初は、人形劇がちょっと子供っぽいと思ったけど、大人でもすごく楽しかったし、面白いのがよくわかった。私は初めて人形劇を見て興味がわきました。また機会がありましたら、他の劇も見たいのでよろしくお願いします。(利用者Sさん)



思いがけない出来事

エゼル福祉会 理事長

大川 美知子

「老人の交通事故が多発しています。高齢者は交通事故に気をつけて下さい」テレビでアウンサーが決まり文句のように繰り返している。

「年寄りには気をつけないと…それにしても困ったもんだわ！」と他人事のように思っていたことが我が身に起きてしまいました。

冬の寒い朝、自転車で「掛かりつけ医」に定期診察に行こうと、自宅を出て自転車を漕ぎだした次の瞬間、路地から左折してきた車とぶつかって転倒し救急車で運ばれる羽目になりました。「年寄りは困ったもんだ！」の「困った年寄り」に自分になってしまった

のです。

救急車で運ばれても、自分の置かれた状況が呑み込めない私は、仕事があるので今日は帰らせて頂きたいと救急外来の医師に訴える始末です。全くピント外れの老人に脳外科の医師は、

①頭蓋骨にヒビが入っていて出血が認められること

②右腕の肘にヒビが入っているのでギブスで固定する必要があること

③右足の膝下が陥没骨折しているので手術の必要があること
を伝え、完治までに3か月余りの期間を要すると説明しました。

「そんな馬鹿な！」と、現実を受け入れるのにかかるの時間がかかったように思います。寝たきりの安静状態が一週間続き、起きられないようになっても左手に持ったスプーンで食べ物や水を口に運ぶ日々が続きました。「ホン

トに誰か食事の介助してよ！」と、情けなく思いました。

ある時、看護師さんに冷蔵庫からペットボトルのお水を出してくれるように頼んだのですが、急性期病院の看護師はいつも忙しく、テーブルの上にポンと置いたまま部屋を出て行ってしまいました。蓋をひねって開けることも出来ない私は、目の前にペットボトルを置かれたまま次の看護師さんが入ってくるのをひたすら待つしか無く、「私の大変さ、少しは理解して欲しい！患者が、何が出来て何が出来ないのかくらい考えてくれよ！」と思いました。

これはほんの一例で、その後も動けない辛さに加えて、不親切極まりない言動に驚きと怒りを感じながら20日間の入院生活を経てリハビリ病院へ転院しました。

申し遅れましたが、病院食の乏しさを補うために私は外部から食品の密輸入をしています

ました。パジャマやタオルの洗濯物もNPO
コンビニの会が主催する「暮らしお助けサー
ビス」に頼って、文字通り助けを外の世界か
ら得ていたのです。

転院したりハビリの病院は、急性期の病院
に比べてとても親切でした。特に私の担当に
なった理学療法士さんは熱心で、何とか自力
で歩けるようにと膝の曲げ伸ばしや腕の可
動域を広げるリハビリを懸命に進めて下さ
り、私もその熱意に応えようと比較的早い時
期から自分でシャンプーをするなど、自分で
できることは少し背伸びしてでも自力でや
りました。

不自由で充分にはできなくても、他人に頼
むよりは自分でやれたほうが楽しく達成感
もあります。障害ゆえに他人の力を借りて暮
らす仲間たちのことを毎日のように考えて
いました。誰でも他人にやって貰いたくて頼
んでいるのでは無い、本当に自力でやれたら

どんなに嬉しいかと。

私の長期入院を支えてくれたもう一つの
存在をご紹介したいと思います。

リモートに依る会議参加、心赦せる知人との
LINEでの情報交換これはコロナ禍での
孤独で心細い入院生活を慰め元気づける役
割を果たしてくれました。

今も印象に残っているのは、自然豊かな丘
陵地帯に居を構える知人から野山に降り積
もる雪景色や、寒さの中で健気に咲き始めた
蠟梅が映像として手元に届き、時にお孫さん
達兄弟が楽し気に時を過ごす様子などが送
信されて来ました。平凡なだけけれど、自分
の日常には無い時間の過ごし方に心がなご
みました。

急性期の病院で、「寒くなって来たから
カーテンを閉めて貰えませんか」と頼む私
(患者)に、「カーテンを閉めるのは私の役
目ではないからできません」と断った配膳係

の病院職員。

「蠟梅が咲き始めました」と春の訪れを知ら
せてくれた知人。

私(人間の誰も)が求めているものは「親切
な心」なのだと思ってきました。

聖書の一節に「愛について」語られている
言葉があります。

コリント人への手紙 第1 13章3節

「愛は寛容であり、愛は親切です。また、人
をねたみません。愛は自慢せず高慢になりま
せん。」

中学生になったばかりの私に学校で配布
された聖書。この言葉に私の心は釘付けにな
りました。「愛する」ってこんなにも重く素
敵なことなのだ。



感染対策と義務化される 事業継続計画

通所部 職員 大西 哲平



1月21日から3月21日までの2か月間、

愛知県としては2回目となる蔓延防止等重点措置が実施されました。オミクロン株が猛威を奮い、愛知県の感染者数も日に四千人、五千人という数で増え続け、蔓延防止等重点措置が解除された現在も1日二千人程度の感染者数で高止まりしており、予断を許さない日々が続いています。

昨年度は、法人内でも感染者、濃厚接触者が判明し、職員の欠勤やなかまに通所を控え

てもらう日が多くありました。法人全体の感

染対策として、通院や抗原・PCR検査を迅

速に行うことで、可能な限り早く感染の有無

を把握し、感染リスクを軽減できるよう取り

組んできました。中には、厚労省の定める濃

厚接触者の定義とは異なるケースもあり、多

様なケースの感染リスクに対し、なかまや保

護者の協力はもちろん、情報共有と対策を常

に更新し、時には部門関係なく、それぞれの

現場の応援に行くことで、一体となって戦っ

ています。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

重度身体障害のなかまが多いVOLONに

とって、介助時に身体的な距離が近くなつて

しまうことは避けられません。マスクを常時

付けられるなかまも少ない為、職員側が対策

を徹底することが求められます。一つの行為

をする度に一回の消毒を徹底する、飲食介助

時のフェイスシールド着用、歯磨きセットの

毎日の消毒など、取り組んでいることは多い

ですが、一つ一つが感染のリスクを低下させ

ていると実感しています。

一方で、感染対策として、密を避けること

は基本であり、それによって例年行われてい

た日帰り旅行、WILLとの合同行事、法人

のクリスマス会等、イベントがかなり減って

います。また、フェイスシールドをしている

と、なかまの声が聞き取りづらく、職員の顔

についているのが気になるのか、マスクとフ

ェイスシールドを外そうと手を伸ばすなか

まもいます。表情でコミュニケーションを行

う方も多いため、マスクを外した職員の顔を

見れないことが距離感を感じさせてしまっているのではと思うことがあります。

誰もが終わりの見えない自粛にストレスを感じています。陽性や濃厚接触者ではなくとも、体調不良による検査結果待ちという

ケースは多く見られ、ヘルパーの変更や、自宅で外出せず自粛という対応に、「仕方ないけど何回我慢をすれば良いんだ！」「いつから通えるの？」と行き場のない怒りや不安の声もあがりまます。

職員はというと、検査結果を気にしながら、陽性となった場合、感染経路の特定や対策の強化等、緊張感で疲弊します。感染対策を徹底するほど、体力的にも精神的にも大変なこととは明らかです。

それでもマスク越しのなかまの笑顔や声

には、コロナが蔓延する前と同様に職員を元気づける特別なパワーがあり、対策を徹底したことで、無事に笑顔が見られて良かったとお互いに安堵し、また次の日も頑張っていくことが出来るのだと思います。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

多様な感染対策が求められる中で、2024年度には介護事業者におけるBCP（事業継続計画）策定が義務化されます。BCPとは自然災害、感染症、大事故等、不測の事態が発生しても、重要な事業を中断させない、または中断しても可能な限り短い時間で復旧させるための方針、体制、手順等を示した計画のことを指します。

今までは、災害に関しては防災計画や避難

計画、感染症に関しては発生時の対応マニユ

アルなどに沿って行ってきました。BCPはそれらを総括し、定期的に見直すことで、有事に備えるものであると言えます。

昨年度には、法人で災害対策委員会を立ち上げました。各部門の課題の抽出と解決策を全体で提案、共有していくことがねらいです。VOLLOでは、2階から1階への緊急避難方法が大きな課題となっています。車いすごころ階段を降ろしたり、職員がなかまを担いで降りる訓練を行いました。マンパワーや安全面から現実的には困難でした。

先日、災害時の被災者支援活動や、日常からの防災、減災活動を行っているNPO法人レスキューストックヤードの職員の方にアドバイスをもらう機会を作りました。避難方法について相談したところ、エアストレッチ

ヤーという空気を入れられる担架があることを教えていただきました。早速レンタルし、避難訓練でなかまにも体験してもらいました。

エアストレッチャーは、専用のポンプを使えば数秒で空気が入ります。私は身長が180cmを超えていますが、寝転んだ時に、サイズにも余裕がありました。底面にはスライディングボードがついていて、床や道路、階段なども持ち上げず少人数で滑らせることも可能です。空気が入りクッション性もあるので、段差を降りたときの痛みや衝撃はほとんどありませんでした。なかまからは「こわくない」「痛くない」といった感想があまり、なかまを乗せて搬送した職員も、担ぎ手が2名でも搬送にあまり重さを感じない、持ち上

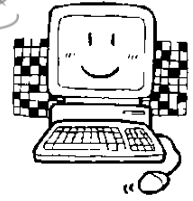
げなくても床や地面を滑らせて移動できるのは便利、担架に空気を入れるのが短いので緊急時に適している等、プラスの意見が多く出ました。VOLLOには複数の避難経路があるため、それぞれに適した避難場所や、エアストレッチャーのような道具を上手く使うことが出来れば、より迅速な避難が可能であると考えています。

BCPの作成からも分かるように、緊急時でも事業を継続していくためには、避難訓練や感染対策について具体的な予測に基づいたマニュアル作成の必要性が増しているように思います。災害や感染拡大が予測不能であるからこそ、すべての職員が事前の備えに対する意識を高めていくことが一番の防災であると感じました。



☞ エアストレッチャーを利用者さんと試しているところ

事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

3月～4月（敬称略・順不同）

★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方
トクメイ

(社会福祉法人エゼル福祉会)

イオンワンダーシティ
マックスバリュ鳩岡

高田徳雄 内田和宏 伊藤弘子

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

原あゆみ 木下楓奈子
丹羽正子 中壱賢一・裕子
名古屋市障害者支援課
豊田通商 大塚商会
GTソリューション
大川美知子

(WILL)

浅井宏紀 上田咲歩
名古屋市障害者支援課
桜木授産所

(VOLO)

石原優樹 鈴木丈登 久保昂太郎
坪内美紀 伊藤弘子 木村恵梨香
名古屋市障害者支援課

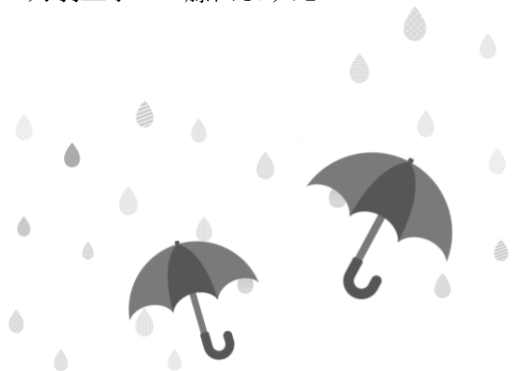
★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

大森 信 石原正寅 田村淳仁
石原まち 寺西 剛 鈴木千春
東原光江 榊原さち 酒井まみ子
辻本道子 大野香織 玉那覇詠洸
後藤 楓 鈴木悠太 平林千聖都
西川昇吾 清水柚衣 長谷川美緒
川口侑里 土田京加 近藤友紀子
桐澤 潮

★ 会報発送ボランティア

半田素子 佐藤美紀子
丹羽正子 藤田ますえ



☆ W I L L ・ V O L O 合同 人形劇観劇会 ☆



【公演劇団】

人形劇団 むすび座

【演目①】

「1・2・3かく・4かく〇」

【演目②】

「だっってだっってのおばあさん」

物語が進むにつれて
みんなが舞台にどんどん
引き込まれていきました



【銀行口座】

三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

【郵便振替口座】番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

コンビニの会

理事 宮川 優子

URL <http://ezeru.sakura.ne.jp/>

E-mail convini@beach.ocn.ne.jp

